

日本の漢文学受容—江戸時代前期の「論語」解釈について

講　師

松野　敏之　氏

国士舘大学文学部教授

日　時　場　所

6月18日（土）

14時00分～15時30分

立命館大学衣笠キャンパス洋洋館2階　講義室＋オンライン

ア　ラ　ス　ジ

江戸時代、いわゆる秦平の世において
武士や町人は何を学ぶべきかを模索するようになった
そのような時期に注目されたのが「漢文学」であり
特に「論語」は江戸時代から熟読されるようになっていた。
その日本人の漢文受容という観点から
仁斎・徂徠の「論語」解釈の一端を伺ってみたい

お　問　合　せ

立命館孔子学院（立命館衣笠キャンパス洋洋館2階）

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

TEL:075-465-8426

FAX:075-465-8429

MAIL:koza@st.ritsumeikan.ac.jp

HP:www.ritsumeikan.ac.jp/confucius/



参加無料

